

創作活動の場を核とした複合空間における共創と集客拠点形成

—オランダの De Ceuvel における空間マネジメントの実態調査—

主査 田口 陽子*¹

委員 柄沢 祐輔*²

本研究はアムステルダム北地区の10年間限定の創作活動の場 De Ceuvel における循環型環境システムの構築や文化芸術活動を通じた自立的な公共的空間の運営方法を把握しようとするものである。関係者へのインタビューと来訪者へのアンケートの結果、発案者・計画者を中心とする多様な専門性を持つクリエイターたちが協会を組織し、公共的空間の管理・運営を行っていること、持続可能性に関心のある人々が集まり、社会的に寛容でコミュニケーションが活発な場が形成されていることを明らかにした。

キーワード：1) 創造都市、2) アムステルダム北地区、3) 持続可能性、4) 社会的寛容性
5) ブラウンフィールド、6) 公共的空間、7) プレイスメイキング、8) 意識調査、9) コミュニティ

CO-CREATION AND COMMUNITY DEVELOPMENT IN A HYBRID SPACE FOR CREATIVE ACTIVITIES

-A Study on Placemaking at De Ceuvel, the Netherlands-

Ch. Yoko Taguchi

Mem. Yuusuke Karasawa

This study focuses on the system of placemaking through building up sustainable system and having creative activities at De Ceuvel site with a 10-year lease in Amsterdam North. It is clarified that the public space is managed by multidisciplinary team of creators who belong to the association, as well as the place with social tolerance and active communications is formed by people who are interested in sustainability through surveys of creators and visitors.

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

産業構造の変化により、欧米の工業都市においては製造業が日本よりいち早く衰退し、工場の移転や廃業などにより、多くの工場跡地や空き工場建物を抱えることになった。工業の空洞化は失業率上昇や犯罪増加など多くの社会問題を招いたが、このような工業都市のなかから、文化芸術の創造性を生かした都市再生事例が報告されており、C. ランドリーやR. フロリダはこのような都市を創造都市と呼び、ポスト工業社会における新たな都市のあり方であるとしている^{x1) x2)}。ヨーロッパでは、ビルバオ市、ナント市、アムステルダム市、ロッテルダム市などがそのような都市再生の成功事例であるとされている^{x3)}。近年では、日本においても文化芸術の創造性を生かした都市再生が各地でさまざまに取り組みられ、横浜市や金沢市などにおいて創造都市をめざした都市づくりが進められている。

アムステルダム市では2003年に「創造性と都市 (Creativity and the City)」と題して国際会議が開催され、創造都市の実践者と研究者の交流が行われた。2000年代から再開発が進んでいる。本研究の対象事例のあるアムステルダム北地区はC. ランドリーやR. フロリダ等の創造都市の理論に基づく都市再生事例のひとつである。1980年代に大規模造船会社が倒産したあと長年放置されていた地域において、2000年代から劇場やホテル・カフェなど文化施設を中心に再開発が進められ、テレビ放送局や映画配給会社の誘致にも成功するなど、現在ではアムステルダム北地区は世界から注目を集める一大文化地区になろうとしている。このようなポスト工業社会における創造都市づくりにより都市のブランディングに成功したアムステルダム市は、国際的な都市間競争を勝ち抜きヨーロッパのなかでも有数のグローバル都市になった。グローバルマネーの流入により都市開発が進行し、観光客の増加により歴史的街並みが美化される一方

* 1 佐賀大学大学院工学系研究科 准教授

* 2 東京理科大学理工学部 助教

で、家賃が急激に高騰して普通の市民や芸術家が自由に使える空間が縮退していることが問題になっている。

本研究で対象とする De Ceuvel はアムステルダム北地区の土壤汚染され手つかずとなっていた一帯に10年間限定のクリエイター^{註1)}たちの創作活動の場として持続可能な社会の構築に向けたオルタナティブな都市開発のあり方を提示することを目指してつくられた。De Ceuvel ではクリエイターたちが土壌浄化や循環型環境システムの構築、慈善活動など、持続可能な社会を目指すさまざまな実験的取り組みを行う一方で、そこにはカフェや一般公開スペースが併設され、地域に開かれた賑わいの場が近隣住民の日常的な居場所として形成されている。クリエイターたちは敷地内外に拠点を持ち自らの事業を営みながら、De Ceuvel 協会を組織して敷地内を公共的空間として運営している。

本研究では、創造都市づくりが進行するアムステルダム北地区の未開発エリアにおいて取り込まれるクリエイターたちの創作活動の場 De Ceuvel に着目し、そこでの共創と集客拠点形成のあり方を明らかにすることを目的とする。そして、文化芸術活動を通じた都市住民のための生きられた居住環境づくりの課題と可能性を考察する。

1.2 研究方法

本研究では、公開されている文献・資料の調査のほか、現地における空間調査、関係者の意識調査、来訪者の意識調査を実施した。

(1) プロジェクトに関する情報の収集

De Ceuvel のプロジェクト概要および取り組み概要を把握するため、関係者が発信するインターネット上の情報を資料にクリエイターたちの活動やプロジェクトの経緯を整理した。また、発案者で計画者である建築設計事務所 space&matter に連絡をとり、その創設メンバーである Marthijn Pool 氏から Eメールのやりとりにより情報収集したほか、現地や事務所においてプロジェクトの経緯や仕組みについてインタビューした。そのほか De Ceuvel 協会が発行する2015年の年次報告書^{註4)}の掲載情報を整理した。

(2) クリエイターの意識調査

De Ceuvel の運営主体であるクリエイターの活動と意識を把握するために、De Ceuvel で活動する12人のクリエイターへのインタビューを実施した。対象者は De Ceuvel に拠点をもつクリエイターのほかに、De Ceuvel に拠点を持たないがプロジェクトに参画しているクリエイターである。当該調査は2015年9月に現地において、英文で作成した共通の質問項目を提示して40分から1時間のインタビューを行った。

(3) 来訪者の意識調査

De Ceuvel にどのような人々が訪れ、どのようなコミュ

ニティが形成されているのかを把握するために、来訪者へのアンケート調査を実施した。被験者の属性、来訪の目的・契機・頻度、滞在時間、満足度、周辺地域の評価について、英文のアンケートを作成し、必要により被験者に口頭説明をしながら面接調査により行った。当該調査は2015年9月の現地調査において、カフェの営業日である木曜日から日曜日の雨天時以外に実施した。協力依頼したほぼ全員がアンケートに応じ、101人からの回答が得られた。

2. De Ceuvel の事業概要

2.1 経緯

アムステルダム北地区では1980年代に大規模造船会社が倒産し、その後は荒れ果てた土地が放置された。その空白地帯にいち早く目をつけたのがクリエイターたちであり、空き家となった倉庫などを不法占拠して活動をはじめた。2000年代からはアムステルダム市が再開発に乗り出し、劇場やホテル・カフェなどの文化施設が建設され、テレビ放送局や映画配給会社の誘致にも成功した。現在はアムステルダム北地区の各所で住宅地開発が進んでいる。

アムステルダム北地区の注目度が高まりつつあるなかで、長年の石油の流出や化学薬品によって土壤汚染された一帯が残されていた。その手つかずの土地の価値を上げて将来的に居住可能なエリアとしていくために、10年間という期限付きの土地利用コンペがアムステルダム市の北地区プロジェクト局と Broedplaatsen 局により開催された。Broedplaatsen 局は空き家や空き地のオーナーと駆け出しの芸術家や起業家をマッチングして小規模な文化活動を支援するプログラムを行っており、De Ceuvel の開発においてもオルタナティブな活動に取り組む若いクリエイターのためのシェアオフィス空間を計画することが求められた^{註2)}。土地利用コンペにより選ばれた建築家 (space&matter と Smeele Architecture) が事業発案者となり、そのほかさまざまな分野の専門家を巻き込んで、都市計画・建築・持続可能性の分野における革新的な計画が練られた。2012年にコンペで選ばれたあと2013年に着工し、仲間で知恵を出し合い、汗を流して空間づくりを行い、2014年6月に De Ceuvel はオープンした。

2.2 立地および空間計画

De Ceuvel はアムステルダム中央駅からフェリーかバスに乗って約15分の立地にあり、観光にも比較的便利な場所にある。De Ceuvel が立地する Buiksloterham 地域はアイ川を挟んでアムステルダム中心部の北の反対側にある19世紀に埋め立てられた工業地帯である。Buiksloterham 地域の多く場所は土壤汚染されているが、

近年では「循環型都市の生きられた研究所」をコンセプトに住宅地開発が進行している^{文5)文6)}。

De Ceuvel の敷地内には前面水路から陸上げされた 16 の中古のハウスボートが設置され、建築家、デザイナー、エンジニア、芸術家、職人、社会起業家、写真家、メディア関係者、ケータリング事業者などのクリエイターが活用している（図 2-1）。ボート 2 からボート 14 はオフィスとして、ボート 1 とボート A およびボート B は一般公開スペースとして活用されている。ハウスボートを再利用したのは、アムステルダム市内に多く存在する処分が必要となった古いハウスボートを無料で入手可能であったからであり、土壌汚染された土地において地面を掘削するなどの基礎工事が不要となるからである。クリエイターたちは中古のハウスボートを分け与えられるかわりに、ソーラーパネルを設置したり断熱を施すなどして省エネルギー性能を改良することを義務づけられている。土地の利用期限となっている 10 年後は水上へ戻す

ことも可能であり、以前のように水上で再利用すれば改修や設備への投資が無駄にならないという仕組みである。

また、船の係留杭を再利用して建設されたベジタリアンのカフェ（Café De Ceuvel）も経営されている^{注3)}。敷地内ではハウスボートのオフィス等と合わせて約 50 人が働いており、カフェ営業日は多くの来訪者で賑わう。来訪者はハウスボートやカフェ周辺に設置されたウッドデッキの遊歩道を自由に散策でき（図 2-2）、敷地に面した水路の浮島にも渡ることができる。カフェの屋外席を中心とした屋外空間はワークショップやイベントにも活用される（図 2-3）。来訪者にとっては敷地全体が公園のような文化スポットとなっている。

屋外の共用空間はクリエイターやボランティア等により手が加えられ、常に変化し続けている。廃材のアップサイクリングを行う会社（Logic Works, ボート 6）がカフェに面して工房を構え、廃材を活用したユニークな家具や設備がいたるところに設えられている（図 2-4）。

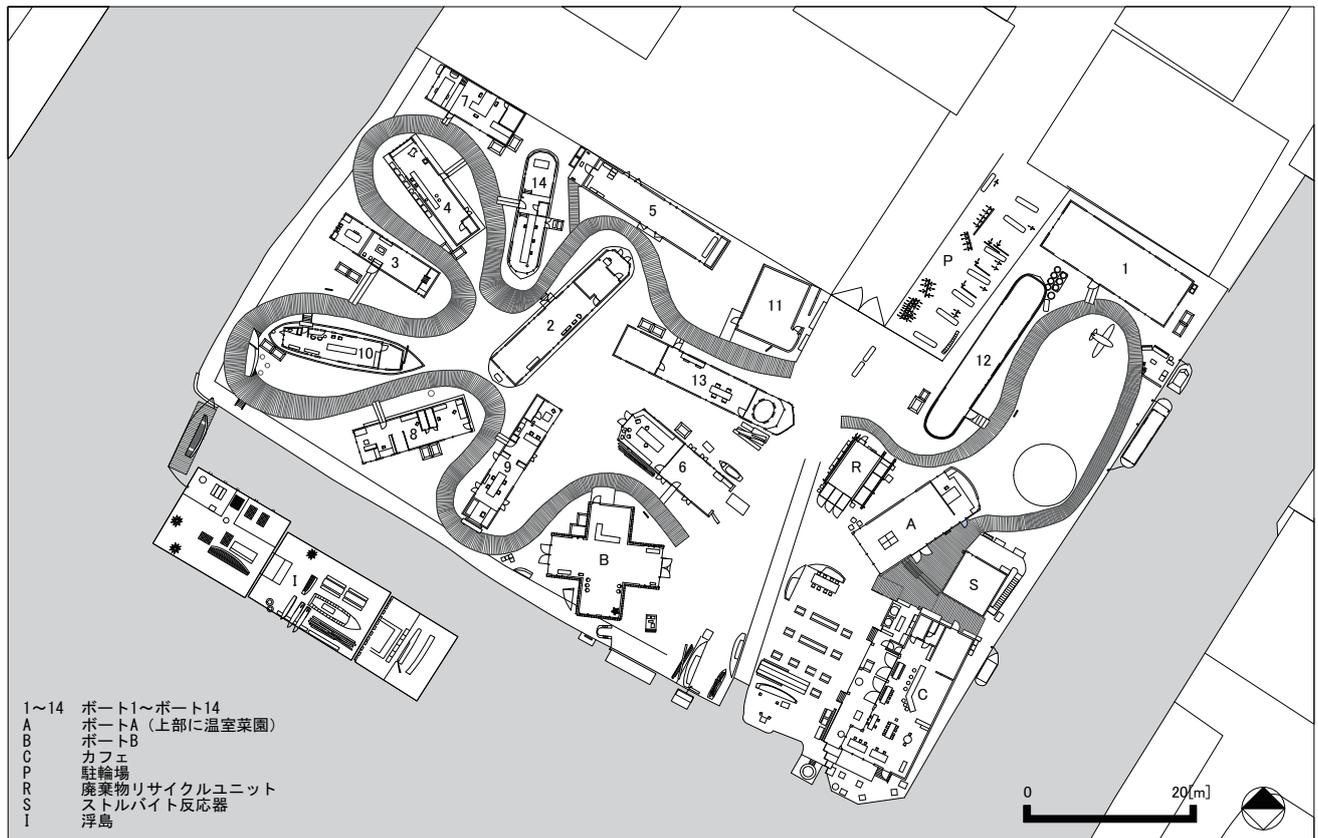


図 2-1 配置図(現地調査と参考文献7に基づいて作成)



図 2-2 ハウスボート (オフィス) と遊歩道



図 2-3 カフェ周辺



図 2-4 ベンチ

2015年の秋には温室菜園がボートAの屋上に新設されている。

3. 持続可能な開発に向けた取組み

3.1 土壌浄化および循環型環境システム

コンペを実施したアムステルダム市は土壌汚染を浄化することをクリエイターたちに義務づけている。敷地内では持続可能な開発に向けて土壌浄化と循環型環境システムの実験が行われている。まず、ランドスケープ・アーキテクト (Delva Landschape Architects) と Gent 大学 (Universiteit Gent) の計画に基づいて土壌汚染の浄化を促すポプラ、ヤナギ、麦類などの植物が植えられ、ファイトレメディエーションによる土壌の浄化が行われている (図 3-1)。完全な土壌浄化には 30 年ほどかかると推定され、土地利用期間が終了する 10 年後も土壌浄化の課題が残るといわれている。

そのほか、環境エンジニア (Metabolic) が中心となり、循環型環境システムが構築されている (図 3-2)。2014 年までに実現していた技術として、コンポストトイレ、生物濾過装置、太陽光発電パネル、ヒートポンプがあげられる。敷地内には下水道がないためハウスボートそれぞれに生物濾過装置が設置され、キッチンやトイレから出る排水は装置により濾過されて地面に流される (図 3-3)。ハウスボートに設置された乾燥コンポストトイレから出る排泄物とカフェやオフィスのキッチンから出る廃棄物はコンポスターで肥料に加工される (図 3-4)。その肥料等により敷地内の菜園でカフェで提供する野菜やハーブが栽培されている。ボートの屋上には 150 以上の太陽光発電パネルが設置されている。電力は各ボートに設置されているヒートポンプなどに供給される。

そのほか 2015 年に実現した技術として、雨水濾過装

置、アクアポニックスの温室菜園、ストルバイト反応器があげられる。雨水を濾過し飲み水にする装置は一種のショーケースとして設置され、来訪者が装置を試すことができる (図 3-5)。温室菜園は de Ceuve1 の栄養素の閉じた循環系を構築するための重要な施設である。温室菜園はアクアポニックスのシステムによるもので、魚と植物の自然共生をつくり出すことにより、カフェで提供される野菜やハーブを栽培している (図 3-6)。ストルバイト反応器ではカフェなどから集められた尿から栄養素を回収し、食物生産のための肥料として使用する実験が行われている。ストルバイト反応器の実験はアムステルダム大学 (Universiteit van Amsterdam) との共同研究により取り組まれている。

2016 年にはセンサーやバイオガスボートの実現が取り組まれている。各ハウスボートには、温度、湿度、エネルギー消費量、エネルギー生成量を測定するセンサーを備え付け、測定データのフィードバックによりシステムを改善する実験が計画されている。水道会社 (Waternet) の管理のもと水質データの採取も行われている。このような実験は、今後より大きな規模で持続可能な開発を実現していくためでもある。カフェから出る生ゴミからガスを生成するバイオガスボートのプロジェクトは、アムステルダム職業大学 (Hogeschool van Amsterdam) との連携により取り組まれている。

De Ceuve1 で採用している環境システムは簡単で初歩的な技術を用いており、そのため低予算で実現可能である。事業の計画者である環境エンジニアや建築家はテナントのクリエイターたちが DIY で設備を製作するワークショップを開催するなど、持続可能な取組みに関して技術指導を行っている。敷地内には循環型環境システムなどを紹介する看板が設置され、持続可能な開発の取組み

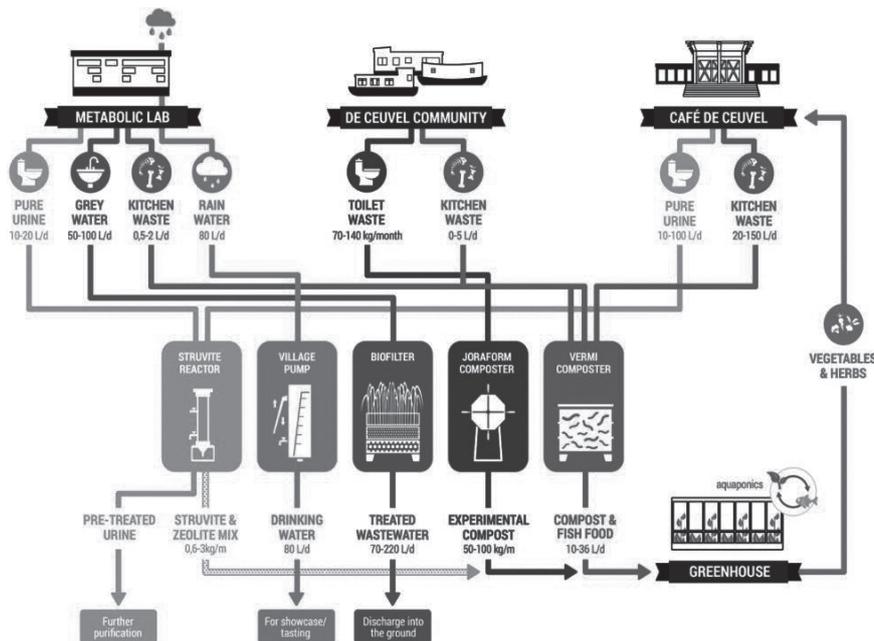


図 3-1 循環型環境システム (出典 : <http://deceuve1.nl>)



図 3-2 ポプラ



図 3-3 生物濾過装置



図 3-4 コンポスター



図 3-5 雨水濾過装置



図 3-6 アクアポニックスの温室菜園

を解説する有料ツアーが実施されるなど、土壌浄化と循環型環境システムの取組みは人々を呼び込むひとつの観光コンテンツになっている。

3.2 イベントなどの文化芸術活動

De Ceuvel では文化芸術に関わる多種多様なイベントが企画され、さまざまな来訪者を呼び込むきっかけを数多く提供している。イベントなどの文化芸術活動は循環型都市に向けた意識と行動の変化を促すことを狙いとしている。10年間における具体的な目標として以下の5項目が掲げられている。

- (1) アムステルダムにおける、ひいてはオランダの国全体における、持続可能で創造的なプロジェクトや緑化運動のネットワークの主要なハブになること
- (2) 循環型住宅地を標榜する Builksloterham 地域のローカルなイノベーション・ハブとして、文化プロジェクトへの参加の機会を提供し、新住民と旧住民が地域の持続可能性の実現について対話する場になること
- (3) アムステルダム北地区周辺の住民が芸術と文化からインスピレーションを得られる場になること
- (4) アムステルダムから、ひいてはオランダの国全体から、注目を集める大規模な記念祭を毎年開催すること
- (5) 子どもたちの世代が文化活動とともに成長し、持続可能性や生活の中で当たり前前の文化を身につける場になること

表 3-1 に 2015 年に開催されたイベントを示す。一般公開されたポート 1、ポート A、ポート B およびカフェにおいて、建築家や環境エンジニアによるレクチャーや展示会、演劇指導家によるワークショップ、ヨガの教室などの小さなイベントが開催されているほか、敷地全体

を活用して、募金イベントや 1 周年などの記念行事などの大きなイベントが開催されている。小さなイベントはテナントの判断で開催されているも多い。大きなイベントは協会の組織により開催されている。特徴的なイベントとしては、庭の手入れやバイオガスの整備などボランティア活動の日がある。

2015 年 9 月の調査期間中には全体イベントとして難民支援のためのチャリティイベントが開催されていた。チャリティイベントでは、カフェをステージに設えて音楽演奏会が行われていたほか、ハウスポートを開放して映画上映会やクイズ大会などが行われ、敷地全体がさまざまなに活用されていた。

4. 協会による管理・運営

4.1 組織・体制

管理・運営は De Ceuvel 協会 (Vereniging De Ceuvel, 以下、協会) という組織により行われている。協会は法律上 2012 年 12 月に限定的なメンバーによって設立され、正式には 2014 年 6 月のオープニングに合わせて全てのメンバーの組織として発足した。協会はアムステルダムの商工会議所に登録されている。

表 4-1 に協会に属している 37 社のリスト、図 4-1 に協会の体制を示す。計画者のほか、テナントの事業主や従業員が協会の会員である。持続可能性というテーマのもとに、建築家、ランドスケープアーキテクト、エンジニア、芸術家、職人、社会起業家、写真家、メディア関係者、ケータリング事業者といった多様な職業のクリエイターが集まり、学際的なチームが構成されている。

協会には任期 1 年交代で役員会が組織され、2015 年には様々な専門性を有する 6 名のメンバーが役員になっ

表 3-1 2015 年に開催されたイベント (出典: 参考文献 4)

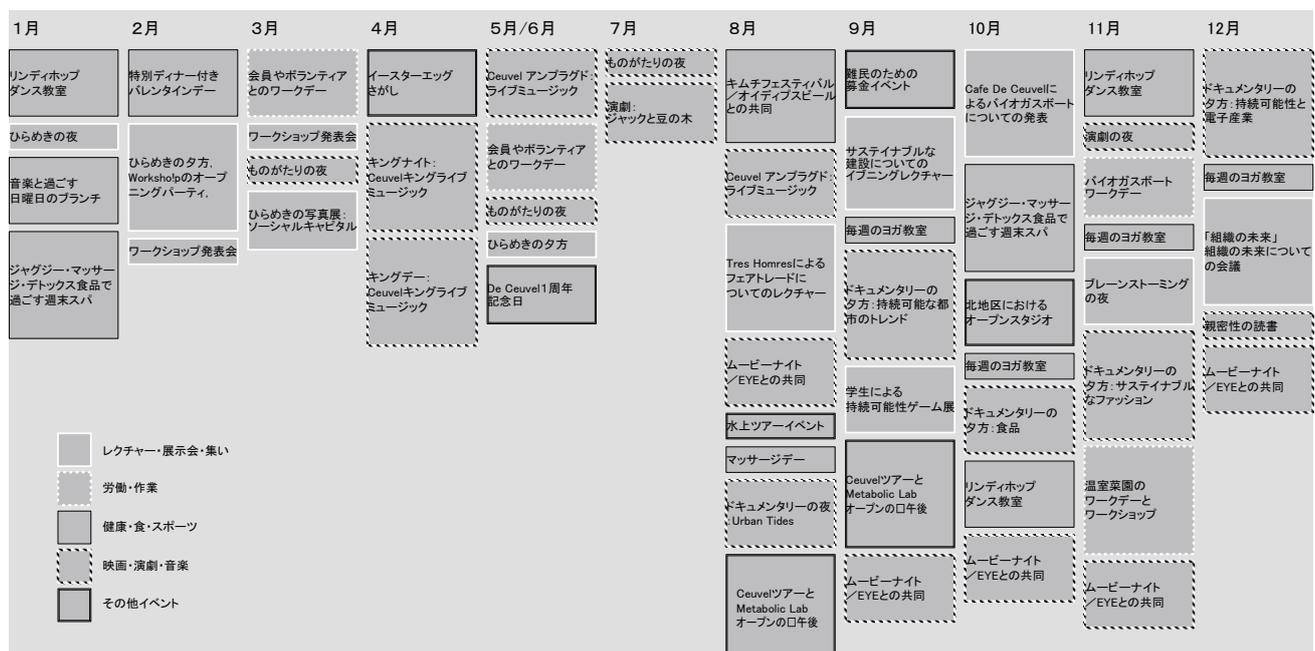


表 4-1 De Ceuvel 協会の会員およびテナント一覧

ポート・建物	公開	テナント【協会役員】(発案者・計画者)	業種
ポート 1 (WORKSHIP)	○	Workshop Trainingen	演劇指導
ポート 2		Macula Filmes	映画製作
ポート 3		SANDRA DE WITTE BLEEKMIDDEL	写真家 映画製作
ポート 4		Carianne van Raak Ilona van de Laaschot	アートディレクター コピーライター
ポート 5		story minded Amber Architecture SUPER USE STUDIOS Rinske Verdult communicatie in cultuure BURO HAP KLAAR WE THE CITY	画家、記者、コピーライター 建築家 建築家 コミュニケーションエージェンシー サービスデザイナー パブリックスペースデザイン
ポート 6		LOGIC WORKS【理事】(計画者)	デザイナー、建築家、職人
ポート 7		LOTS OF Wendy Rommers	コンセプトデザイン 空間・グラフィックデザイン
ポート 8		Buresn Fonkel Smeele architecture (発案者・計画者) JEOREN APERS ARCHITECT【会計】(計画者)	建築家 建築家
ポート 9		Sustains Ville I LOVE BEEING MATUUR OP JE MUUR The Tipping Point Dr.Monk THE DUTCH WEEDBURGER	社会起業家 社会起業家 ダイエツ指導 社会起業家 社会起業家 ケータリング事業者
ポート 10		CREERENDE HEREN	空間演出デザイン・製作
ポート 11		A Telier Maartje Van den Heuvel	画家 コミュニケーションエージェンシー
ポート 12		THEATRE EMBASSY BAM! Producties Schokkenbroek Ontwerp & Fotografie NATUURGENEESKUNDE NOORD	演劇集団 演劇プロダクション 写真家 栄養アドバイザー
ポート 13		Circle Economy	ソーシャルエンタープライズ
ポート 14		HEEY【会長】	写真家、コピーライター アートディレクター、イベント運営
CAWAテナント			
ポート A (METABOLIC LAB)	○	METABOLIC【書記】(計画者)	環境エンジニア
ポート B (CROSS BOAT)	○	space&matter (発案者・計画者)	建築家
カフェ	○	CAFÉ DE CEUVEL【理事】	カフェ
		Studio Valkenier.nl (計画者)	建築家

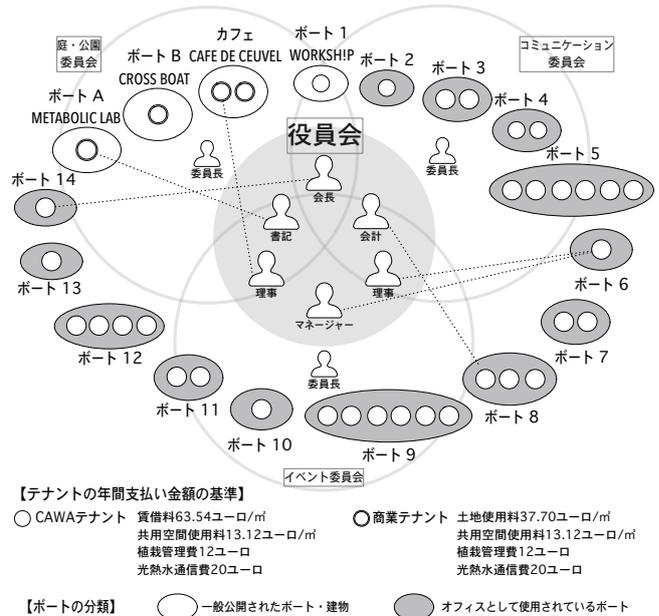


図 4-1 De Ceuvel 協会の体制

表 4-2 初期費用の資金調達

資金源	金額
アムステルダム市から助成	250,000ユーロ
A財団から助成	50,000ユーロ
B財団から助成	少額
C銀行からの借入	250,000ユーロ

表 4-3 協会の収入源

収入源
テナントからの賃借料等
取組みを解説する敷地内のツアーの参加料
共用空間のレンタル料

た^{注4)}。役員会は、会長1人、会計1人、書記1人、理事2人、マネージャー1人により構成され、原則として毎月会議が開催されている^{注5)}。役員会のほかにDe Ceuvelの運営に携わる委員会として、イベント委員会、コミュニケーション委員会、庭・公園委員会が組織されている。これらの委員会の枠組みを超えて関心のあるトピックに応じて会員等が集まり会議を開催することもある。また、会員はDe Ceuvelの運営のために年間40時間のボランティア活動が義務付けられており、草刈りや掃除などの庭の手入れ、ウェブサイトのデザイン、イベントの企画、ポートのペンキ塗りなど、各クリエイターの得意を生かした無償の活動を行っている。

4.2 資金調達およびテナントの仕組み

ポートの取得や改修、庭の整備、循環型環境システムの導入などは協会によって実施されている。その初期費用はアムステルダム市からの助成 (CAWAプログラム^{注8)}) 250,000ユーロ、A財団からの助成50,000ユーロ、B財団からの少額助成のほか、C銀行からの借入250,000ユーロにより賄われている (表4-2)。そのほか、個別プロジェクトの目的に応じて助成金を獲得しながら、太陽光発電パネルの設置などの整備を行っている。借入金返済および管理・運営のための収入源は主に会員からの賃借料である。そのほかに取組みを解説するツアーやイベント会場のレンタルなどにより収入を得ている (表4-3)。

ポートに入居するテナントはアムステルダム市

Broedplaatsen局のCAWAプログラムの助成を受けて改修されたポートのテナント (以下、CAWAテナント^{注6)}) と、自費で改修したポートや建物を商業目的で使用するテナント (以下、商業テナント^{注7)}) の2種類がある。CAWAテナントが入るポート1からポート14の所有権は協会の会員全員によって共有され、商業テナントが入るポートAとポートBおよびカフェ建物の所有権は改修費もしくは建設費を負担したそれぞれの事業主が有している。

CAWAテナントは年間賃借料として1m²あたり63.54ユーロを支払わなくてはならない。加えて、植栽管理費として年間12ユーロ、庭・広場・棧橋などの共用空間の割増料金として年間で1m²あたり13.12ユーロ、水・電気・インターネットの使用料として年間20ユーロを支払う必要がある。テナントの自費で整備されたポートA・ポートB・カフェの商業テナントは年間で1m²あたり37.70ユーロの土地使用料を支払っている。土地使用料ほかには、CAWAテナントと同様に、植栽管理費、共用空間費、光熱水通信費を支払っている。

5. クリエイターへのインタビュー調査

De Ceuvelの活動に参加するクリエイター12人へのインタビューの結果を表5-1に示す。De Ceuvelには敷地内に拠点を持つクリエイターだけでなく、協会の会員ではないクリエイターが活動していることがわかった。彼らはDe Ceuvelで取り組まれている個別プロジェクトに参画するクリエイターであり、学生や外国人が含まれて

いる。以下において質問項目ごとに傾向をみていく。

(1) De Ceuvel への参加動機

発案者・計画者である A と B は自らの専門性にかかわる明確な動機を持って参加している。彼らの事務所は De Ceuvel の敷地外にあるが、商業テナントとして De Ceuvel のなかに拠点を持ち、コミュニティ形成や循環型環境システムの実験などに取り組んでいる。そのほかの者の参加動機は、よい環境に仕事場を持つこと、De Ceuvel の持続可能性の取組みに賛同していること、コミュニティの人々がオープンであることなどであった。非会員のクリエイターたちは De Ceuvel に蓄積された知識や技術を求めて参加している。

(2) 協会の管理・運営への関わり方

協会の会員はさまざまなかたちで運営に関わっている。役員以外の会員は自らの知識と技術を生かした仕事をして、運営・管理に関わっている。たとえば、ボートのメンテナンス、空間デザイン、看板のデザイン、ウェブサイトの製作などである。そのほかの仕事としては庭の手入れや清掃がある。アップサイクルのデザイナー (E) は技能を生かした特別な関わり方をしており、庭の手入れやボートの修理などを 1 時間 15 ユーロで引き受けている。彼は De Ceuvel の管理・運営にはなくてはならない存在であり、2015 年は協会の役員会のマネージャーを担当していた。過去・現在の役員の多くは当初から参加している計画者であるが、新しく加わった会員の役員もいる (F)。

(3) De Ceuvel で満足なこと・不満足なこと

満足なこととして人々とのオープンなコミュニケーションをあげる人が多く、そのほかに持続可能性や考え方に賛同するという意見や、De Ceuvel の取組みは全員にクレジットが与えられるので誰もが主役になれるという意見があった。これらは参加動機と重なる点が多い。不満足なこととして、役員以外の会員から運営に時間が取られるなどの意見、役員からは敷地内の乱雑な状況や会員の経験のなさを問題視する意見が複数あった。非会員からの不満足なことはあまりなかった。商業テナントのカフェだけが大きな利益をあげていることを問題視し、その利益の一部をメンテナンスや継続的な改善のために支払うべきだという意見もあった。

(4) De Ceuvel の発展や自らの活動継続に必要なこと

De Ceuvel の発展に必要なこととして金銭よりも人的資本が必要であるという意見が多くあった。人的資本としてはボランティアのほかに経験のある人材が必要であるという意見があった。そのほかに自治体からの規制緩和や許可が必要という意見が新旧役員の複数からあげられた。10 年間という期限が設定されることにより、共用空間やボートに投資をしなくなることを懸念する意見もあった。自らの活動継続に必要なこととしては、クライアント、仕事やプロジェクト、金銭がほしいという意

見が多くあった。

(5) 協会への要望

協会への要望として、コミュニティを良好に維持すること、開発を継続すること、もっと異なる階層や多様な文化的背景をもつ人々にも開かれたコミュニティにしてほしいという意見があった。役員経験者からは共同性や非商業性を重視すべきだという意見があった。彼らは来訪者が増え過ぎていることを問題視し、コミュニティを維持するためのバランスの必要性を感じている。

(6) 自治体への要望

自治体への要望として、規制を緩和して実験や活動の機会を増やしてほしいという意見がもっとも多くあげられた。当初から参加している計画者からは自治体が自分たちの活動に多くを期待しすぎているとの意見があった。また、10 年後も継続して土地活用を許可してほしいという意見が複数からあった。多くを投資したので開発進行中の近隣地域の一部として残してほしいという意見や、都市中心部には自由に活動できる場所が減っているので残してほしいという意見があった。クリエイターたちの一部はジェントリフィケーションの進行による居場所の縮退を懸念していることが窺える。

(7) De Ceuvel 内外の組織との連携活動

De Ceuvel の計画そのものが、複数の建築家、環境エンジニアにより取り組まれた連携活動であり、その計画者のほとんどが De Ceuvel に拠点を持ち、連携活動を継続している^(注8)。De Ceuvel がオープンしてからは、デザイナー同士、建築家と社会起業家などが、分野の近い遠いにかかわらず、さまざまな連携活動が行われている。De Ceuvel 外の組織では大学や社会起業家などとの連携活動があげられた。

そのほか、De Ceuvel の取組みから派生したプロジェクトもある。そのひとつがクリエイターの活動に共感して集まった環境意識の高い人々の住宅地を水上に開発し、環境志向型のコミュニティをつくるというものであり、近隣地区で進行中である^(注9)。住民が主体となり、建築家や環境エンジニアとのワークショップを通じて計画が進められ、現代における持続可能な居住の文化が新たに創造されようとしている。

(8) 土地契約が切れる 10 年後どうしたいか

同じ場所で De Ceuvel の取組みを継続したい、もしくは、別の同様の場所で第二の De Ceuvel に取り組みたいという意見が多くあった。De Ceuvel での経験を書物などにまとめて若い世代に伝えたいという意見もあった。

(9) De Ceuvel での活動を通じた意識変化・学習事項

多くのクリエイターがプロジェクトを通じて考え方が現実的になったと感じている。そのほか、金銭は重要ではないと考えるようになった、チームで取り組むことの重要性を学んだ、持続可能性についての考え方が変わっ

表 5-1 De Ceuvell で活動するクリエイターへのインタビュー結果

質問内容 /インタビュー対象	会員・ 非会員 テナントの 種類	(1)	(2)	(3-1)	(3-2)	(4-1)	(4-2)	(5)	(6)	(7-1)	(7-2)	(8)	(9)	
		De Ceuvellへの 参加動機	De Ceuvellの管 理・運営にどう 関わっているか	De Ceuvellで満 足していること	De Ceuvellで満 足していないこと	De Ceuvellを展 開させるための 必要事項	自らの活動継続 のために必要な こと	協会に対する要 望	自治体に対する 要望	De Ceuvellの内 部組織との連携 活動	De Ceuvellの外 部組織との連携 活動	土地契約が切 れる10年後どう したいか	De Ceuvellでの 活動を通じた意 識変化、学んだ こと	
A	建築家、36歳、男性、 修士、オランダ人 (発案者・計画者)	会員 商業テナント	・潜在的な可能性を秘めた場所であるので、コンペに参加した。私自身はアムステルダム中心部にあるが、エンドユーザーのコミュニティを積極的に構築しているため、コミュニティの一員になることにした。	・2013年の最初の段階、2014年の運用開始の段階において役員会で活動した。現在は関わっていない	・ハードとソフトの両面での結果 ・場所のデザインの方法と結果としての雰囲気 ・コミュニティの素敵な人々	・De Ceuvellの使用に関するアンバランス ・来訪者の数がキャパシティと管理の問題を引き起こしている ・カフェだけがの来訪者によって利益を上げている ・メンテナンスと継続的な改善のために、カフェは利益の一部を協会に支払うべき	・ポランティア活動など人的資本 ・多くの知識、エネルギー、資源のシェア ・自治体からの10年以上の滞在許可(そうしない場合、共用空間やボードにだんだん投資を行わなくなる)	・アムステルダム中心部地区で事業しているため、De Ceuvellは依存していない	・社会的なパラメータを確認すること ・個人的な利益よりも集団的な利益を監督すること	・多くを投資したので、10年後もDe Ceuvellが継続できるようにしてほしい ・この10年自治体とあまり関係がないが、現在建設されている近隣地域の一部になりたい	・プロジェクトの初期段階で他の建築家たちとの密接な協力関係を構築した ・環境エンジニアと持続可能性のスキームを開発した	・ランドスケープアーキテクトとランドスケープ計画を作成した	・若い世代に伝えるために、本やレクチャーにより私たちの知識をシェアしたい ・若くして建築家になることは難しい ・プロジェクツトを実現できる ・プロジェクトの実現は必ずしも金銭に依存しないこと	
B	環境エンジニア、31歳、男性、修士、オランダ人 (計画者)	会員 商業テナント	・世界にサステイナブルシステムをつくること ・特定の場所でサステイナブルシステムをテストすること	・2016年の会長なので、全てに関わっている	・我々はお互いにインスピレーションを与えている ・モチベーション ・ビジネス、ポジティブなインパクト	・最初に膨大な力と熱意が必要であること	・規制ばかりの状態ではない ・この3年間は金銭が必要だったが、これからはポジティブなアイデアが必要	・多くの実験を行ったが、ハイブリッド分散型のテクノロジーにおいてDe Ceuvellは価値が小さくない ・人々の考え方に刺激を与えること ・例えばサステイナブルホテルをつくるか	・自治体にはもっとリラックスしてほしい ・より多くの機会と実験がほしい ・規制が厳しすぎる	・近隣でのプロジェクトでは建築家たちと協力している ・アムステルダム職業大学とは温室整備、バイオガスのためのプラットフォームを共同で作成している	・アムステルダム職業大学とは温室整備、バイオガスのためのプラットフォームを共同で作成している	・この場所をキーポイントとして、都市中心部にはこのようなタイプの場所はなくなってしまった	・以前は全てが可能であると考えていたが、いまは全てが難しい ・いかにかかるとも、未来については、でも失望したわけではない	
C	建築家、41歳、男性、オランダ人 (計画者)	会員 CAWAテナント	・De Ceuvellのすぐ近くに家を建てて住む予定であるので	・2015年の会見担当だった ・建物の清掃 ・廃棄物のリサイクルユニットの建設	・持続可能性に関する人々からインスピレーションを受けること ・De Ceuvellの取組みは全員にクレジットがあり、だれもが主役になれる	・協会の立ち上げが難しかった ・コミュニティにつながる多くのプロジェクト	・大きな野望 ・金銭はたくさんはない ・ビジネスにつながる多くのプロジェクト	・インターネット(wifi) ・コーヒー	・場所づくり・コミュニティづくりの新しい方法を支援してほしい	・組織全体がコラボレーション ・他の建築家と不動産会社のためのプラットフォームを作成している	-	・10年後のことはわからない	・見方、考え方が変わった ・未来に向けて建築が変わるべきか、未来についてより考えるようになった	
D	建築家/空間構成家、37歳、修士、オランダ人 (計画者)	会員 商業テナント	・イニシアティブ	・共用空間のデザイン	・野望 ・オープンなコミュニケーション ・新しいアイデアに対して耳を開く ・材料の再利用 ・材料のかなり豊かな方から	・自治体はハッピーだが我々に許可を与えてくれない ・材料再利用と廃棄物のバランス	・自治体との協力	・許可	・開発をつづけること	・私たちに再開発の許可を与えてほしい ・自治体はDe Ceuvellを誇りに思っているのだから、ストリーはひとつであるべき	・他の建築家、環境エンジニアとアムステルダム中心部地区のプロジェクトをやっている ・カフェは環境エンジニアとの協力のより実現	-	・よくわからない	・De Ceuvellに来る前に意識が変わった ・シェア、アップサイクル、資源のループを閉じること、クラウドファンディング
E	デザイナー/建築家、41歳、男性、学士、オランダ人 (計画者)	会員 CAWAテナント	・仕事場として良い場所を得るため ・計画の実現にかかわった ・ポート再利用は私のアイデアである	・2015年の役員(マネージャー) ・年間計画のアドバイス ・コミュニティの庭の手入れ、屋根の修理などは1時間1ユーロで引き受けている	・コミュニティの人々と一緒に働いたり、話したりすること	・カオス ・人々の食文化 ・このような場所が確保されること ・戦略	・若者たちの文化 ・海外から誰かが来てくれること ・戦略	・継続すること ・コミュニティのスピリット ・海外から誰かが来てくれること ・平等にかかわれるわけではない	・200,000ユーロ ・我々にしてほしいことが多すぎる	・カフェのベンチ(ポートを再利用)とテラスをディスカウント価格でつくった ・環境エンジニアのテーブルをつくった	-	・自治体にコンタクトをとって第2のDe Ceuvellをつくる	・私の場合すでに3年が経過して、失望から学んでいる ・人々は気楽だ	
F	建築家、32歳、男性、修士、オランダ人	会員 CAWAテナント	・働くに素晴らしい場所 ・プロジェクトの実現に関わらなかつたが、クライアントや訪問客に見せるのにも良い場所	・2016年の会計担当 ・素敵な人々 ・私の仕事がうまくいっている ・協会の賃借料を支払う仕事をして、励ましてくれる	・場所全体の外観と雰囲気 ・素敵な人々 ・私の仕事がうまくいっている ・仲間の人々と仲良くしてくれる	・住まいから少し遠い ・もう少し見栄えを良くして、メンテナンスをしたほうがよい	-	・ない	・自治体は金銭等に対してDe Ceuvellの実現を支援したが、駐車場や近隣からの満足しているの交渉は役員会が担っているのだから、これまでこのように責められない	・入居する前からDe Ceuvellの人々と連携活動を行っている ・社会起業家が都市圏に移動できることを願っている	-	・De Ceuvellの取組みについて学んだ ・常に座っている外では、外を歩いている人と話したりできることで、健康的になった		
G	サービスデザイナー、37歳、男性、修士	会員 CAWAテナント	・自分自身の仕事場を持つため	・新しいウェブサイトを製作した	・このコミュニティでは休日のように居心地が良い	・庭の手入れや清掃をしないことはならないこと	-	・もっと仕事が欲しい	-	・まだない	-	-	・良くなったことばかりで、悪くなったことはない	
H	デザイナー、38歳、修士、オランダ人	会員 CAWAテナント	・De Ceuvellの哲学が好きだから	・看板のデザインをした ・ポジティブなアイデアに参加している	・多くの人々と交流しなくてはならない ・考え方やサステイナブルデザインが好き	・金銭よりも、より多くの働きが必要	・クライアント ・時間	・夢を実現するための時間と時間がほしい	・もっと先陣で、物事を円滑に進むように促して欲しい	・展示会・ウェブサイトにおいて、デザイナーやコピーライターと協力した	-	・ノマドのように別の場所でDe Ceuvellのようなプロジェクトを実現して人々をインスピレーションを与えたい	・持続可能性は現代の大きな問題であるが、未来にわたって重要なことである	
I	カフェ従業員、男性、学士、オランダ人	会員 商業テナント	・興味深い場所だから ・人々との出会い	・企画のコーディネート	・未来を変えるというアイデア	・少し散らかっている ・オーナーがかなり若い	・金銭	・特になし(睡眠と休息)	・夢の実現に向けて挑戦し続けてほしい ・持続可能性に関するプロジェクトの建設を継続してほしい	・カフェの計画では建築家や環境エンジニアと協力した	・バイオガスポートにおいて社会起業家と協力している	・良くなるからいい ・持続可能性に関する何かにかかわりたい	・まだベジタリアンではない ・肉を食べることについて意識するようになった	
J	社会起業家、37歳、男性、学士、オランダ人	非会員	・想像上のプロジェクトや実験的なプロジェクトを行うのに最適な場所だから ・人々がオープン ・De Ceuvellには多くの知識があるから ・カフェのメンバーに誘われた	-	・実験ができることは大変よい機会である ・循環経済を構築することは必要だと思う	・ネガティブなこと ・あまりない	・多くの想像力 ・よいチーム ・ひとりでは発展させられない	・面白いプロジェクト	・多くの仕事を必要とすると思うが、協会には継続的な取組みを頑張してほしい	・自治体は多くの支援をした ・いまのところよい働きをしている	・バイオガスポートはカフェと共同プロジェクト ・デザイナーや環境エンジニアとも協力している	・バイオガスポートではアムステルダム職業大学、ポート職人も協力している	・共に活動する力を得た ・金銭稼ぎは主眼点ではなく ・社会的な取組が取り組むことが解決につながることを学んだ	
K	学生、22歳、男性、修士、フランス人	非会員	・インターンシップ ・大学の指導教員にすすめられた	-	・人々 ・カフェの持続可能性	・まだない	・経験のある人々	・金銭	・取組みを継続すること	・空間をいまのように使用することを許可してほしい	・バイオポートのプロジェクトでカフェと一緒に取り組んでいる	・バイオガスポートで社会起業家と協力している	・たくさん変わった ・楽観的・よい性格になった	
L	デザイナー/芸術家、24歳、男性、学士、オランダ人	非会員	・社会的な環境をつくるため ・将来はDe Ceuvellの環境エンジニアと一緒に働きたい ・自己De Ceuvellのクリエイターにアプローチした	・浮島づくりにかかわっているが、多くはポジティブでやっている、たまに協会から謝礼がもらえる	・浮島のワークショップで人々や子どもたちが楽しんでいるのを見て、たまにここで創造的な機会	・もっと異なる社会・文化的背景を持つ人々を集めたほうがよい ・面談を招待することで、もっと気軽に楽しめる場所にした	・近隣とのコミュニケーション ・異なるビジネスにもっと意識的に、さらに分野を広げること	・浮島を使用し続けられること ・人々に興味を持ってもらいたい ・多様性	・異なる階層の人々との活動	・金銭的な支援	・浮島に来る日人々	・冬は来訪者が少ないので、ここには滞在しない	・異なる背景の人々から多くの学問的技術を学んだ ・野心が強い、現実的になった ・物事を成し遂げる方法を学んだ	

た、健康に意識的になった、持続可能性に関する技術を学んだなどの意識変化・学習事項が挙げられた。

6. 来訪者へのアンケート調査

6.1 来訪者の属性

2015年9月に実施した来訪者へのアンケートの回答者全101人の属性について整理した。年代の傾向として20代・30代の来訪者が全体の73%、性別の傾向として女性が65%占め、来訪者には若い世代と女性が多いことがわかった(図6-1)。次に居住地の傾向をみると、来訪者の85%がオランダの居住者であり、そのうちの63%がアムステルダム北地区の居住者である。その約1/4が敷地近隣のアムステルダム北地区からの来訪者であるが、アムステルダム北地区以外の来訪者が約3/4と比較的多い(図6-2)。一方で、オランダ以外のヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国、カナダ、台湾からの来訪者もあり、世界各国から観光客が訪れている。来訪者の職業をみると、まずクリエイティブ産業^{注9)}に携わるさまざまな職業の来訪者が58%を占めることが読み取れる(図6-3)。次に多いのが学生であり、サービス業、無職・年金受給者の来訪者もみられた。来訪者の学歴をみると、大学卒業以上の学歴の来訪者が91%を占め、うち大学院修了以上の学歴の来訪者が52%みられた(図6-4)。

以上の来訪者の属性の傾向から、De Ceuvelにはアムステルダム市内に居住する若い世代のクリエイティブ・クラスを中心としたコミュニティが形成されているといえる。

6.2 来訪の目的・契機・頻度、滞在時間、満足度

来訪の目的として、カフェを目的とする来訪者が圧倒的に多い(図6-5)。そのほかではMetabolic Labなどの一般公開スペース、クリエイターとのビジネス、イベントを目的とする来訪者がみられた。来訪頻度をみると、来訪者の45%がはじめての来訪であり、半数以上の55%の来訪者がリピーターである(図6-6)。来訪の契機として、

友人や親戚からの推薦・紹介、クリエイターからの情報により来訪している人があわせて62%と多いことが読み取れる(図6-7)。インターネットを参照する人も12%と比較的多く、なかでもSNSを通じて情報を得ている人が多い。インターネットを通じて情報を得た人を含め、主に知人を介した社会的なネットワークを通じて情報が広まっているといえる。他のメディアとしては、新聞や雑誌で情報を得ている人は比較的多いが、テレビ・ラジオの影響はあまりみられなかった。滞在時間については、30分～1時間の滞在、1～2時間の滞在、2時間を超える滞在が、それぞれ1/3程度であった(図6-8)。また、来訪の満足度について質問したところ、76%がとても満足、22%がやや満足と回答し、ほとんどの人が満足していることがわかった(図6-9)。

来訪の契機・頻度の傾向から、主に口コミによりDe Ceuvelの評判が広まって人々がカフェを中心に訪れるようになり、来訪に満足した人々の多くがリピーターになっていると考えられる。価値観を共有する人々を中心にコミュニティが形成されていることが窺える。

6.3 コミュニケーション

クリエイターとのコミュニケーション、来訪者同士のコミュニケーションについて、来訪者に質問した(図6-10)。来訪者の3割がクリエイターとのコミュニケーションの機会があった、半数が他の来訪者とのコミュニケーションの機会があったと答えている。また、クリエイターと実際に知り合いになった人、他の来訪者と実際に知り合いになった来訪者がともに約1/4いることがわかった。他と比較しないと正確にはいえないが、De Ceuvelはコミュニケーションが活発な場所であると考察できる。

上記の質問に加えて、他の来訪者とコミュニケーションしたいかどうかを質問した(図6-11)。来訪者の64%がコミュニケーションしたいと答え、その理由として、情報交換や出会いなどの「機会性」をあげた人がもっと

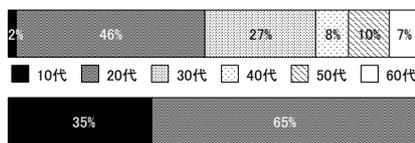


図 6-1 来訪者の年代・性別



図 6-2 来訪者の居住地

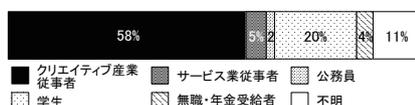


図 6-3 来訪者の職業

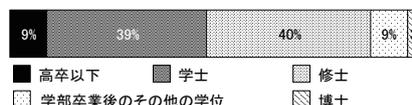


図 6-4 来訪者の学歴



図 6-5 来訪の目的

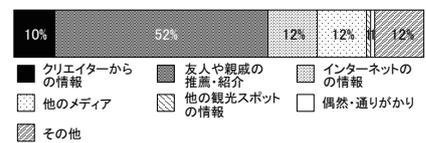


図 6-7 来訪の契機



図 6-8 滞在時間



図 6-6 来訪の頻度



図 6-9 満足度

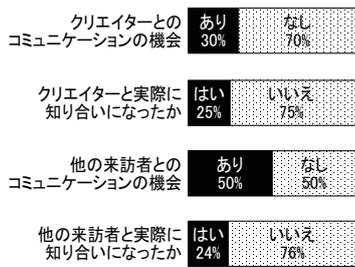


図 6-10 コミュニケーション傾向

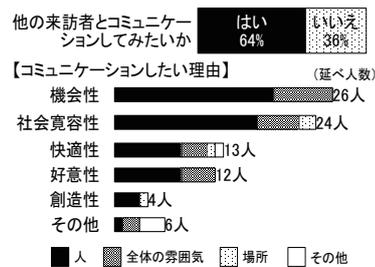


図 6-11 コミュニケーションしてみたいかどうか

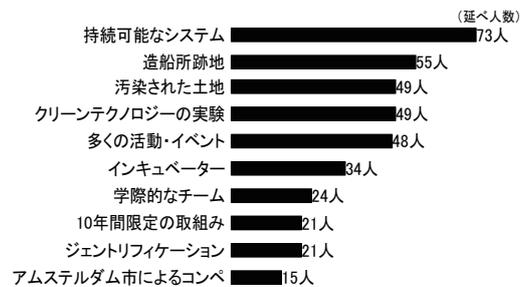


図 6-12 De Ceuvel について知っていること

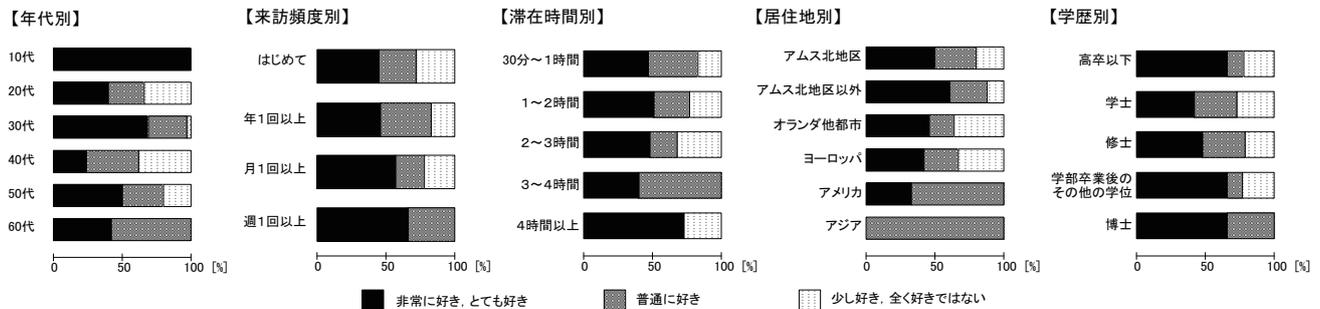


図 6-13 近隣地域を好きかどうか

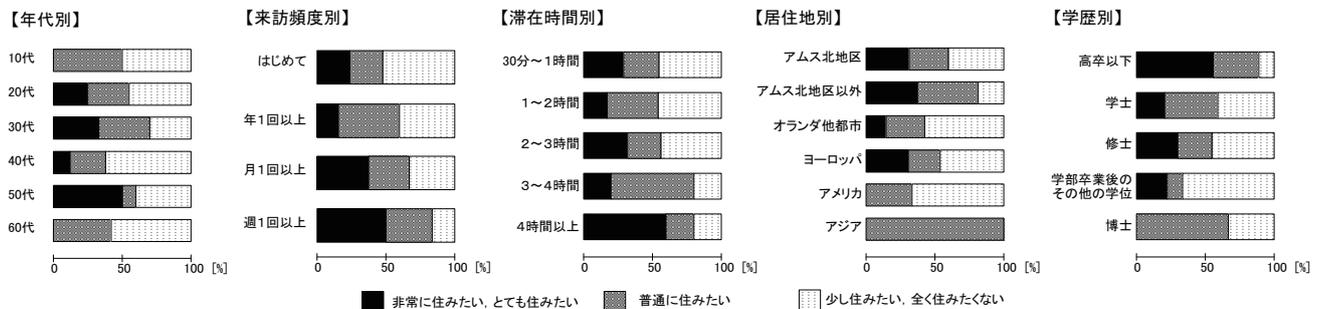


図 6-14 近隣地域に住みたいかどうか

も多く、オープンさや親しみやすさなどの「社会寛容性」が次に多くあげられた^{注10)}。また、コミュニケーションしたい理由であげている対象に注目すると「人」が大半を占めていることが読み取れる。

来訪者の興味・関心を調べるために項目をあげて De Ceuvel について知っていることを選んでもらった (図 6-12)。結果、持続可能なシステム、造船所跡地、汚染された土地、クリーンテクノロジーの実験などが知っている事柄として多く選ばれた。反対に、コンペ、期限、体制など De Ceuvel の仕組みについては相対的に知られていないことがわかった。

以上の傾向から、人々は De Ceuvel が持続可能性などをテーマに運営される公共的空間であることを認知し、コミュニケーションにより有益な情報に遭遇することを求めて来訪していると考えられる。

6.4 周辺地域に対する興味

De Ceuvel の取組みが開発の意図通り土地の魅力向上につながっているかどうかを検証するために、来訪者に De Ceuvel 近隣地域を好きかどうか、近隣地域に住みたいかどうかについて質問し、年代・来訪頻度・滞在

時間・居住地・学歴との関係を見た (図 6-12, 図 6-13)。来訪頻度が高いほど、また滞在時間が長いほど、好きな人も住みたい人も割合が高い傾向がみられた。アムステルダム市内居住者の居留意欲が高く、そのうちでは De Ceuvel が立地するアムステルダム北地区の居住者よりもそれ以外の居住者ほうが居留意欲が高い傾向がみられた。年代別では 20・30 代と 50 代に近隣地域に住みたい人が多く、学歴別では相対的に学歴の低い人に近隣地域に住みたい人が多くみられた。10 代や博士の学位を持つ来訪者は近隣地域を好む傾向にあるが、居住したいわけではないことが読み取れる。

以上の傾向から、特定地域への帰属意識が低い高学歴の人々を含むクリエイティブ・クラスが集まることにより De Ceuvel の魅力が向上し、結果として、近隣地域は北地区以外の市内居住者や高学歴でない人々にとって住んでみたい場所になっていると考えられる。

7. まとめ

本研究では造船所跡地の利活用を契機として循環型環境システム構築や文化芸術活動による自立的な公共空間づくりに取り組むアムステルダム北地区の De

Ceuvél を取り上げ、その取組内容や組織・体制を把握したうえで、クリエイターへのインタビューと来訪者へのアンケートを実施した。その結果、以下のことが明らかになった。

(1) De Ceuvél では低予算で実現可能な範囲で循環型環境システムを構築し、これからの都市開発に必要とされる持続可能性の実験に取り組んでいる。その取組み自体が人々の共感を呼ぶコンテンツになっているのに加えてさまざまな文化芸術活動を行い、多種多様な人々との接点をつくりだしている。すなわち、持続可能性という共通テーマのもとに多面的な入口をつくる努力がなされている。その結果、クリエイターの活動に共感するクリエイティブ・クラスが集まり、社会的に寛容でコミュニケーションが活発な場が近隣地域に限定されないテーマ型のコミュニティとして形成されている。また、地域の居住地としての魅力が向上している傾向もみられ、アムステルダム市が意図した通りジェントリフィケーションが進行することが期待できる。その一方で、異なる階層や多様な文化的背景の人々が気軽に立ち寄れる場所になっていないことが課題である。De Ceuvél の目標である「新住民と旧住民が地域の持続可能性の実現について対話する場」にしていくためにはさらなる努力が必要であると考えられる。

(2) De Ceuvél で活動するさまざまな分野の専門性を持つクリエイターたちは協会を組織し、会員全員が管理・運営を行うプラットフォームを構築している。協会には役員会のほかに、庭・公園委員会、コミュニケーション委員会、イベント委員会が組織され、各人は専門性を生かしながら管理・運営に携わっている。このように会員が主体的に管理・運営に関わる協会の体制が構築されている。一般のクリエイターは協会の活動に多くの時間を割かなくてはならないことに不満を感じているのに対して、カフェは来訪者の増加により大きな収益をあげており、協会をコミュニティとして維持していくためには運営・管理の体制における社会的バランスの再考が必要であると考えられる。

(3) De Ceuvél のクリエイターたちは計画時から建築家を中心に協力体制を構築しており、現在は協会のプロジェクトや各々の事業においてさまざまな共創が行われている。De Ceuvél が注目を集めることでクリエイターの人的ネットワークが拡大されつつあり、協会に所属しないクリエイターがDe Ceuvél の敷地内で活動することも稀ではない。クリエイターたちの多くが金銭よりも人的資本の重要性を認識しており、知識や技術があることがDe Ceuvél の魅力になっている。その点で敷地内における環境技術の実験は重要な要素である。期間が限られていたり、規制が厳しすぎることにより、環境改善や整備に投資をしなくなることも懸念され、今後の展開のた

めに自治体とのさらなる協働が必要である。

De Ceuvél は2013年に始まった10年間の事業であり、今後の経過をみていく必要がある。De Ceuvél のような文化芸術の取組みが持続可能なものになっていくためには、商業性・事業性を超えて共同性・公共性をどのように維持していくかが課題であり、De Ceuvél においても公民連携の方法が模索されている。都市住民が自由に使える生きられた公共的空間として10年後もDe Ceuvél が継続することを期待したい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの関係者の方々に協力を得ました。現地調査と資料整理には佐賀大学の大学院生と学部生に協力していただきました。また、De Ceuvél のクリエイターの方々には快く調査に応じていただき、特に事業発案者であるspace&matterのMarthijn Pool氏には交流を通じて計画の考え方など多くの情報を頂きました。ここに記して謝意を表します。

<注>

- 1) De Ceuvél において活動している全ての人を「クリエイター」と呼んでいる。芸術家、デザイナー、エンジニアのほか、起業家なども含まれる。
- 2) De Ceuvél の土地所有者はアムステルダム市である。
- 3) メニュー価格帯は市内観光地のカフェと同程度に設定されている。
- 4) 2014年、2016年の役員会は3名のメンバーで構成されている。2015年は例外的に6名のメンバーで役員会を組織した。
- 5) 会議の開催場所は特に決まっていない。クリエイターのポートなどで行われている。
- 6) CAWAテナントはアムステルダム市のCAWA委員会の審査を受けてポートに入居する権利を得ている。
- 7) 計画者自身が自費でポート改修や建物建設を行い、自らが商業テナントとして入居している例が多い。その場合は敷地外にオフィスがあり、敷地内の拠点は打ち合わせやレクチャー・ワークショップなどの会場として使用している。
- 8) ランドスケープの計画者であるDELVA LANDSCHAPE ARCHITECTSはDe Ceuvél 内に拠点を持っていない。
- 9) フロリダは「クリエイティブ産業とは、サービス業、製造業、農業以外の産業のことで、科学、テクノロジー、芸術、デザイン、エンターテインメント、メディア、法律、金融、マネジメント、医療、教育が属している」と定義している。(出典:参考文献1)
- 10) コミュニケーションしたい理由としてアンケート調査票に記入された言葉を、形容詞などによって表される「性質」の視点と、名詞などによって表される「対象」の視点から整理した。理由にあげられた性質を「機会性」、「社会的寛容性」、「快適性」、「好意性」、「創造性」、「その他」に分類した。

<参考文献>

- 1) フロリダ, リチャード: クリエイティブ都市論, 井口典夫訳, ダイヤモンド社, 2009
- 2) ランドリー, チャールズ: 創造的都市, 後藤和子訳, 日本評論社, 2003
- 3) 吉本光弘, 菅野幸子, 佐々木雅之: 文化による都市の再生～欧州の事例から, 国際交流基金, 2004
- 4) Vereniging De CeuveI : JAARVERSLAG 2015, 2015
- 5) <http://buiksloterham.nl/>
- 6) Eva Gladek, Sanderine van Odiijk, Peter Theuws, Albert Herder: Circular Buiksloterham / Tranditioning Amsterdam to a Circular City, Metabolic, Studiodots & DELVA Landscape Architects, 2014
- 7) Tom Avermaete, Hans van der Heijden, Edwin Oostmeijer, Linda Vlassenrood: Architecture in the Netherlands Yearbook 2014/2015, nai010, 2015
- 8) <https://www.amsterdam.nl/bestuur-organisatie/organisatie/overige/cawa/>
- 9) <http://www.spaceandmatter.nl/schoonschip>

<研究協力者>

- 松本清哉 佐賀大学大学院工学系研究科博士前期課程
安武佑馬 佐賀大学大学院工学系研究科博士前期課程
古賀奈々 佐賀大学理工学部都市工学科